令和５年度　幼児教育研修（保育の質向上）
「対話する保育とは」　～子どもの声や思いに耳を傾ける～
日時：令和５年４月２８日（金）１８：００～２０：００
会場：西新井文化ホール
講師：山梨大学　名誉教授　　加藤　繁美　氏

本研修では子どもの発達を理解して、子どもの声や思いに耳を傾けることの大切さを学びました

なぜ今　対話する保育なのか？

★**多様性**･･･一緒に生きることを大切にしようという社会になってきた

★**「子どもの権利条約」　12条** ･･･自由に自己の意見を表明する権利

対話とは･･･

自分とは違う価値観や意見をもった人から学ぼうとする姿勢

会話は、話すこと　伝えること　説明すること

対話的関係を支える二つの権利

子どもには

①自分の声を自由に表現する権利

②自分の声を正当に聴きとられる権利

a.**肯定的に受け止める権利**

b.**正当に評価される権利**

保育者は、子どもが言いたいことを自由に表現できる環境を整え、**どんな状況においてもそれを肯定的に受け止めて**いきます。

子どもの声は全部受け止めるの？

子どもの声は、まず共感的に全部受け止めます。
しかし、その内容により、受け止めていいところと、受け止めてはいけないところの**線引き**をすることも保育者の責任です。

子どもとつくる保育とは

子ども観

昔
受動的主体
子どもは受け身な存在

今
能動的主体
子どもは意味をつくる主人公

保育者は、**子どもの語られてはいない本当の気持ち（願い）を汲み取っていくこと**が大切です。
保育実践は、子どもの本当の気持ちを聴きながら、**子どもの声を起点に、子どもの声で**つくられていきます。

子どもの声の対話的な聴き方

＊子どもの声に耳を傾ける3つのポイント＊

1 子どもの声を温かく迎え入れ まずは共感〈共感的〉

子どもは、気持ちを受け止めてもらえると安心して自分を表現するようになります

2 答えを導こうとしないで 新たな問いと疑問 がわくことを大切に 〈問い生成的〉

保育者は子どもたちに語り掛けながら、子どもと問いや疑問が見つかるような話し合いをします

3 自分の判断・思い込みを いったん保留すること 〈正解保留的〉

保育者は伝えてしまいたくなる気持ちを少し抑えて、子どもたちの声を待ちます

気をつけて！

みんなで話し合いをしているときなど、強い言葉をもつ子どもの声に引っ張られてしまうことが集団保育の中ではおこりがちです。

保育者は、**一人一人の子どもの声を大事にし、声にならない声を聴き、声にならない声を活かす保育を、子どもと一緒につくり出していくことが大切です。**

自分の声を、共感的・問い生成的・正解保留的に聴きとられた子どもは、**相手の声を同じように聴きとる子ども（対話する主体）に育っていきます。**

リスニングは、保育実践における新しい関係性を生み出していきます。

研修生の報告書より

共感することが大切ということを意識して保育をしているつもりだったが、無意識のうちに否定から入ってしまったことが多かったと振り返り気付いた。子どもの言葉の裏に隠された本当の子どもの声を読み取り、それに子ども自身が気付くことができるようにすることが大切だと学んだ。

子どもたちとつくる保育において、子どもたちが自由に表現し、正当に聴きとられる権利が存在することを意識する。今語られた子どもたちの声を受け止め、語られてはいないが語られようとしている子どもたちの声を引き出していきたい。